

『手紙をかくよ』

◇登場人物

・ 岡

・ カナ

・ 和田

携帯電話の着信音が響いている。

照明 F・I

ダンボールがいくつか、部屋の隅に置いてある。

岡、パンツ一丁姿のまま両手を背中側で縛られ、もじもじしながら突っ立っている。

カナ、岡の様子を気にすることもなく、鼻歌まじりでダンボールに荷物を詰めている。

岡 あのさ・・・取ったら？ 電話。

カナ いいよ、面倒臭い。

岡 そう・・・。

着信音が止む。

岡 ・・・・あのさ・・・。

カナ 何？

岡 そろそろほどこいてくんない？

カナ え？ なんで？

岡 だって・・・引越しの準備出来ないじゃん。

カナ まだ終わってなかったの？ なのに、なんでそんなことしてんのよ！

岡 カナちゃんが縛ったんでしょ！

カナ だって、岡くんが紐を出してくるから・・・え、縛るんじゃないの？

岡 荷物をね！ 俺を縛らないでよ！

カナ ちゃんと言って。荷物の方だよって、言って。

岡 普通わかるでしょ。

カナ え、でも岡くん、職場じゃお荷物だったんでしょ？

岡 そういう荷物じゃなくない？ というか、そういうナイーブなこと言う？ 俺へこむよ？

カナ え、どこがどこが？（食い入るように岡の全身を眺める）

岡 ・・・・どこもへこまないよ？

カナ なんでだよ！

岡 ・・・・すいません。

カナ、荷造りに戻る。

岡 あのさ・・・

カナ 何？

岡 ほどこいてくんない？

カナ え？ なんで？

岡 だから！・・・せめて、服は着せて。

カナ 嫌よ！

岡 なんぞ。

カナ というか、岡くんの洋服、全部捨てちゃったよ。

岡 え？ え！ 嘘でしょ！ えー！

カナ え、いるの？

岡 いるでしょ！ 何言ってるんだよ！

カナ だって、持っていく荷物は最小限にして、他は捨てようって岡くんが言ったじゃん。

岡 言ったけど、洋服は別でしょ。というか、これじゃ最小限にもならないじゃん。

カナ ちゃんと行って。洋服は別だよって、言って。

岡 普通わかるでしょ。待てよ。俺がさっきまで着てた服は？

カナ ないよ。

岡 え？

カナ 今さっき、下のコンビニに捨ててきた。

岡 わざとでしょ。ね、わざとでしょ！ 拾ってきてよ！

カナ 嫌よ！ 自分で行きなさいよ。

岡 縛られてるのに？

カナ じゃあ、ほどこいてあげるから、拾ってきなさいよ。

岡 こんな格好でコンビニのゴミ箱漁ってたら、絶対通報されるよ！

カナ なんなの？ さっきからわがままばかり！ 子どもか！

岡 ……すいません。

カナ ダンボール、着ていたら？

岡 え？ ダンボールを、洋服代わりにするってこと？

カナ うん。このダンボールくれた人がさ、そうしてたよ。

岡 そいつ、大丈夫？ じゃあ、それ着てくよ。どうせ下のコンビニまでだし。

カナ（岡の紐を解きながら）ゴミ箱漁ってきたこの変態野郎。
岡（解かれ）ありがと。

岡、畳まれたダンボールを取って、それを頭から被ると、チュ
ーブトップのワンピースみたいな格好になる。

岡 これ、大丈夫？

カナ いいじゃん。全然違和感ない。

岡、ダンボールの側面に穴があいていることに気付く。

岡 これ大丈夫？！

カナ おしゃれ。

岡 あ、本当？ じゃあ、いってきます。

カナ いってらっしゃい。

岡、玄関を出て行く。

カナ、荷造りに戻る。

間

岡、慌てて戻ってくる。

カナ どうしたの？

岡 大変だ！ 和田だ！ 和田が来た！

カナ え？ どっちの和田？ 阪神の監督の方？

岡 なにふざけたこと言ってるんだよ！ 君の彼氏の方の和田だよ！

カナ なんだよ。普通の和田だよ。

岡 なんだよ、普通の和田って。どうしよう……。

岡、右往左往する。

カナ（過剰に驚く）えー！ 普通の和田？！

岡 遅いよ……。

インターホンが鳴る。

岡 来ちゃった……はやく隠れて。

カナ バラす？ もうバラそうか？ 私たちのこと。

岡 ダメだよ。明日にはもう、あいつの知らないところに行くんだから。

今日を乗り越えればなんとかなるって。

カナ そうかな。

岡 でも、なんであいつがここに？（カナを見る）

カナ、あからさまに視線を逸らす。

岡 何したんだよ！

インターホンが鳴る。

和田の声 岡ちゃーん？ いないのか？

岡、カナを奥の部屋に押し込む。

和田の声 岡ちゃーん。

岡 ちよつと待ってー。

岡、玄関まで移動し、ドアの覗き穴から外を覗く。

和田 俺だよ。和田だよ。

岡 どうしたの？

和田 ちよつと入れてくれないか？ 大変なんだよ。

岡 何があつたの？

和田 詳しく話したいから、早く入れてくれよ。

岡 えーつと……。

和田（懇願するように）お願い、ねえ、入れて？

岡 そういう言い方すると、いろいろと誤解されるだろ？ このマンション

ン壁が薄いんだよ。

和田 お願い。先っちょだけでいいからさ。

岡 だからさ……わかったよ。

岡、内鍵をしたまま扉を開く。

岡 どうしたんだよ。

和田 本当に先つちよしか入らないじゃないか！ もっと入れろ！
岡 わかったよ。

岡、内鍵とドアを開ける。

和田 ありがとう（岡を見て）なんだよ、その格好。

岡 ちよつとコンビニまで行こうと思つて。

和田 それで？

岡 そうだよ。

和田 そうか・・・どうしよ、岡ちゃん。大変なんだ。

岡 どうしたんだよ。

和田 カナが出てつた。

岡 え？・・・（あたふた）え、出てつたつて・・・。

和田 仕事から帰つたら、これがポストに。

和田、手紙を取り出し岡に手渡す。

岡（手紙を読み上げる）他に好きな人が出来ました。だからもう、あなたとは一緒に暮らせません。ごめんなさい。こんなわがままな女でなく、もつともつと素敵な人と幸せになつてください。

和田 どうしよう・・・。

岡 どうしようつたつて・・・

和田 なんて返せばいい？

岡・・・は？

和田 なんて返事を書けばいいんだよ？

岡 返事書くの？

和田 え、書かないの？

岡 なんで書くの？

和田 え？ だつて、例えば知り合いから年賀状もらつたら、その返事は書かないのか？

岡 それは書くけども。

和田 じゃあなんでこの手紙には書かないんだよ！

岡・・・すいません。

和田 つたく・・・（紙とペンを取り出し、岡に手渡す）ほい。わかつたら書け。

岡 はい・・・え？ ちよつと待て。なんで俺が書くことになつてんだよ。

和田 代わりに書いてくれよ。俺こつうの苦手なんだよ。

岡 嫌だよ！ 俺は関係ないだろ！

和田 お願いだよ。書いとくな、いろいろとな、良いことがな、こつう、あるぞ。

岡 何だよ、良いことつて。

和田 それは、いろいろあるけど。例えば・・・就職とかに有利なんだよ。

岡 そんなわけあるかよ！

和田 本当だよ！ ビジネスの世界じゃな、メールでも手紙でも、返事の手書き方大事なんだぞ。それに、お前最近仕事辞めたばつかりだろ？ な

おさら書けよ！

岡 そうだけど・・・え、仕事辞めたこと、お前に言ったっけ？

和田 お前には言っただけでなかったけどな、俺な、そういうの知ってたよ。

岡 なんだよ、それ。

和田 とにかく、書いてくれよ。な？

岡・・・わかったよ。

和田 やった。

岡 書いとくからさ、ちよつと一人にしてくれないか？ 集中したいんだ。

和田 なんだよその作家気取りは。たかだか手紙だろ。

岡 うるさいよ。書いてやるんだから言うことを聞けよ。

和田 わかったよ。向こうの部屋で寝てるからよ。

和田、寝室の方に向かう。

岡、和田を必死にせき止める。

岡 ダメダメダメ！

和田 なんだよ。

岡 寝室はダメ！

和田 なんでだよ。

岡 犬飼ってたんだよ。

和田 このマンションペット大丈夫なのか？

岡 大家さんには内緒にしてんだよ。

カナの声 わんわん！

岡 ほら。

和田 大丈夫か？ まあでも、俺犬好きだし、心配ないよ。

岡 ダメだ！ ウチの犬はヤバイ！ ダメだ！

和田 なんだだよ。

岡・・・実はライオンなんだよ！ 犬のフリしてるけど。

和田 なんだよ、それ。

岡 凶暴なんだよ。近づいたら喰われるぞ！

カナの声 パオーン！

和田 これ象じゃねえか？

岡 え、ああ、まあな・・・像の血も混ざってるから。

和田 どうなってるんだよ！ やべえ、尚更興味出てきたよ。部屋に入れて

くれよ。

岡 ダメだよ！ 秘密で飼ってたんだよ。

和田 もう俺は知ってたからいいだろ。

岡 ダメだよ。誰にも見せない！

和田 どうせ、この部屋に連れてくるたびに誰かに見られてるよ。ライオ

ンなんてどれだけ目立つと思ってるんだよ。

岡 大丈夫だよ・・・カバンに入れてきたから。

和田 入らねえよ！

岡 小せえんだよ！・・・（親指と人差し指を一〇センチ程度の間隔に

開き）これくらいだから。

和田 そんなのがあるのか！

カナの声（小さな声で）パオーン。

和田 もうダメだ！ 我慢できねえよ！ 見せてくれよ！

岡 ダメだよ！ 外で待っててくれよ。後で見せてやるから！

和田 本当か？

岡 ああ。だから・・・あ、コーヒー買ってきてくれないか？

和田 まあ、いいけど。

カナの声 私コーラ！

岡（寝室に）おい！

和田（怪訝な顔で）うん？ なんだ？ コーラ？

岡 ウチのライオン、時々喋るんだよ。

和田 うわ、すげえーな！ じゃあ、コーラも買ってくるか？

岡 悪いな。あとで払うからさ。お願いね。

和田 了解。

和田、部屋を出て行く。

岡、玄関まで行き、和田がいなくなるのを確認する。

その間にカナが寝室から出てきている。

岡（カナに気付き）カナちゃん、どういうことだよ。

カナ（白を切る）え？ なに？ なにが？

岡 なんでもう、この手紙を和田が持ってたんだよ。明日出発する前に
て言ったよね？

カナ（髪の毛や爪をいじりながら）だって、なんか、明日はいろいろ
と忙しいから、今日で、ポストに入れておいた方が、なんか、
いいかなって（後半は泣き出している）。

岡 泣くなよ。怒らないから。

カナ（泣き止んでニコニコ）もう泣かない。

岡・・・なんでコーラ注文したんだよ。

カナ（泣き出し）だって飲みたかったんだもん。

岡（さえぎるように）わかったよ！ もう声出さないでよ。

カナ わかった。

岡とカナ、見つめ合っている。

間

カナ 岡くん・・・。

岡 なに？

カナ・・・好き。

岡 カナちゃん・・・。

二人、お互いにゆっくりと近づき、いちやつく。

和田、缶コーヒーとコーラを手に、部屋に戻ってくる。

カナ、慌ててダンボールの中に隠れる。

岡、それを必死に隠そうとする。

和田 ライオンの分は一本でいいのか？

岡（カナが隠れているダンボールを自分の身体で覆うようにしている）え、
ああ。

和田 なにしてんだよ。

岡 え？ なにも？ どうしたの？

和田（ダンボールを指差し）なんだよそれ。

岡 え？ ダンボール。

和田 中身を聞いてるんだよ。

岡 知ってるよ。中身だろ？ 知ってるよ。

和田 なんだよ。

和田、ダンボールに近づき、手を伸ばす。

岡 やめろー！

和田 なんだよ！

岡 近づくな。

和田 なんで。

岡 爆弾だ。

和田 は？ 何があつたんだよ！

岡 誰かが俺を狙ってるらしい。

和田 お前、何かしたのか？ 誰かに恨まれるようなこととか。

岡 え？ まさか！ そんなことするわけないだろ！

和田 じゃなきや、爆弾送りつけられることなんてないぞ？

岡 大丈夫だ。さ、返事を書こう。

和田 なんでそんなに落ち着いてるんだよ。

岡、ダンボールの上で手紙を書き出す。

和田 なんでわざわざそこで書くんだよ！ 危ないだろ！

岡 違うよ。爆発しないように押さえてるんだ。

和田 どんな力を持っているんだ、お前は。

和田、岡に気付かれないように忍び足で寝室に入っていく。

間

和田、バタバタと出てきて、

和田 おい、岡ちゃん。手のひらサイズのライオンがないぞ。

岡 え？ ああ、逃がしたよ。

和田 なんで！ もったいない！ それにさっき、見せるって言ったじゃないか！

岡 まあ、いいじゃないか。返事、一応書いたんだけど。

和田 良くないよ。どれだけ楽しみにしてたと思ってるんだよ。

和田、岡が書いた手紙を覗き込む。

和田（読み上げる）この腐れマンコ野郎。今度俺の前に現れたら、ただじ

やおかねえかんな。

岡 どう？

和田 ボツ。

岡 なんで？

和田 なんだよこれ。

岡 怒ってるんだろ？ 絶縁状だよ。

和田 誰が絶縁状を書けつつあったよ。逆だよ、復縁を願い申し上げる。

岡 お前、まだそんな乙女みたいなこと言ってるのか？

和田 誰が乙女だ。

岡 いつまでもそんなふう引き摺ってんじゃねえよ。

和田 今日くらい引き摺らせるよ！ ついさっき逃げられたばっかだぞ！

岡 そんなんだから、カナちゃんに逃げられるんだよ。

和田 は？

岡 お前の、そういう女々しいところとか、束縛して自由にしてやらないところとか、そういうところが、カナちゃんは嫌になったんじゃないのか？

和田 なんだよ。お前に何がわかるんだよ。

岡 何も知らないけど。でも出て行ったのは事実だろ。新しい男と比べて、お前には魅力がなかったってことなんだよ。

和田 てめえ・・・！ 偉そうに言いたい放題言いやがって！（声を震わせながら）いまこの状況の俺の気持ち考えてみるコラア・・・。

岡・・・ごめん、泣くなよ。
和田（ダンボールに突っ伏せながら）カナ、どこ行ったんだよ！帰って来いよ！。

カナ、ダンボールの側面の穴から手を出し、和田の背中を擦る。

岡、カナの手を引っ込めようとする。しばし攻防がある。

カナ、手を引っ込める。

和田、すっと顔を上げ、携帯電話を操作して耳に当てる。

岡

ダンボールの中から、携帯電話の着信音が聞こえてくる。

岡、和田、ダンボールを凝視。
間

岡 あ~~~~！！！！

和田 なに？

岡 爆発するぞ！

和田 え〜！

岡 タイマーが作動してる！ 逃げろ！

岡、和田を引っぱり、玄関の前まで連れて行く。

岡 少しだけ、時間をくれ（ダンボールを振り向く）

和田 おい、大丈夫か？ なにすんだよ？

岡 大丈夫。安心して。

岡、ダンボールへと引き返す。

和田 頼んだぞ。

和田、玄関を出て行く。

カナ、ひよこつと顔を出す。

岡 なんて電源切つてないんだよ！

カナ だって〜（泣き出す）

岡 いいよもう！ 寝室で待ってて。

カナ（照れながら） え？ いま？ もう、岡くん……。

岡 そういう意味じゃないからね！ 隠れてて！

カナ、寝室へと消える。

間

和田、おそるおそる玄関から入ってくる。

和田 おい、大丈夫か？

岡（ダンボールを畳みながら） 大丈夫。ちゃんと処理したから。

和田 お前爆弾処理とか出来んのか？ それ、就職でかなり有利だぞ！

岡 本当か！

和田 ああ、どこに行っても困らないよ。それとさ……。

岡 どうした？

和田 今までありがとう。さようなら。

間

岡 え？

和田 手紙だよ、手紙。カナへの返事。

岡 あゝ。突然何かと思ったよ。

和田 なんか、いまの騒ぎで吹っ切れたよ。潔く、諦めようと思って。だ

から、『今までありがとう。さようなら』って。

岡 お、男らしい！

和田 書いてくれよ。

岡 それくらいなら自分で書けるだろ？

和田 ダメなんだよ。お前じゃないと。

岡 なんなんだよ。

岡、紙にペンを走らせている。

和田、部屋の中で荷造りをしていた紐を見つけ、品評している。

和田 お、いいね。いい紐だ。お前、いつもこれで縛ってんのか？

岡 ん？ うん。

和田 もしかして、縛られる方？

岡 何の話だよ。

和田 ちなみに俺は、縛られる方だけどな。紐状のものがあれば、まず縛

られてみる。

岡 カナちゃんはお前の影響か！

和田 何がだよ。

岡（慌てて） あ、いや、何でもない。

和田 それにしても、いい紐だな。ちょうどいいなあ。かなり丁度いい。

岡ちゃん、縛ってもいいか？

岡 ダメだよ。

和田 違うよ？ 俺を縛るんだよ？

岡 ダメだよ！ 人を縛る為に出してきたんじゃないんだから。

和田 え？ じゃあ他に何を縛るんだよ。

岡 荷物だよ。普通荷物以外縛らないよ、逆に。

和田 荷物？　なんで？　お前、引越してもすんの？

岡 ……まあ。

和田 え？　いつ？

岡 明日。

和田 明日？！　聞いてねえよ。どこに？　遠いところか？

岡 まあ…遠い、かな。

和田 ブラジルとか？

岡 なんでブラジル？

和田 いや、なんとなく。遠いし。

岡 そこまで遠くないって。

和田 どこ行くの？

岡 エジプト。

和田 一緒じゃないか！

岡 一緒じゃないよ。ブラジルとエジプトは、全然違うからな。

和田 そうだけど…なんで早く言わなかったんだよ。

岡 ごめん。言うとか寂しくなるかなって。

和田 そりゃそうだよ…しばらくはむこうにいるつもりなのか？

岡 うん。もう帰ってこないかも…。

和田 そうだったのか…良かったよ、間に合って。

岡 え？

和田 もう返事は書けたのか？

岡 まあ、一応。今更なんだけど、この手紙、どうやってカナちゃんに渡すんだよ。

和田 ああ、それはお前が持ってきてくれ。

岡 俺が持ってきてどうすんだよ。

和田 それにしても、いい紐だ。丁度いい。

岡 さつきから丁度良い、丁度良い、って、何に使うのに丁度良いんだよ。

和田 こう使うのによ。

和田、岡の首に紐をかけ、思いきり引っ張る。

岡、激しく抵抗する。

バランスを崩し、地べたで暴れ回る二人。

しばらくして、岡の動きが止まる。

間

和田、ゆっくりと立ち上がり、寝室へと入っていく。

間

和田、カナを寝室から引っ張りだしてくる。

カナ、おぼつかない足取りでついてくる。

和田 お前も手伝え。

和田、岡の体を起こそうとしている。

カナ、和田に従うまま。

照明 F・O

了